

【学年】 3年	【教科・単元】 理科「じしゃくのひみつ」
【実践内容】 〈学習のめあて〉 磁石を折ると、折ったところにも極が存在するということを理解する。そしてさらに磁石への興味を深める。 ・実践概要 ① 棒磁石を半分に折る。 ② 折れた部分どうしはくっつくということから、それぞれ折れた部分にも S 極か、N 極があるのではないかと子どもたちが考えた。 ③ 折った部分はそれぞれ何極かを予想する。 (磁石を持たずに個人で予想させる) ④ 半分にした磁石をグループに配り、それぞれ何極なのか検証させ、話し合いながら答えを出し合う。 (知的好奇心について) 子どもたちは非常に磁石に関して興味があり、とにかく色々と触りたがった。そんな中、実験中に磁石を落として割ってしまったグループがあった。そこで、二つに割れた磁石はどのようなになってしまうのか(壊れてしまったのか)ということ拾い、子どもたちに問いかけた。 ほとんど磁石の性質を学習していた時点での投げかけであったが、ほぼ全員の子がどうなるか分からなかった。折れた部分どうしはくっつくのかという子どもの疑問から、学習が進んでいった。 そして折れた磁石をどのようにしたら S 極、または N 極であることを証明することができるかを試行錯誤して考えさせることができた。	
【子どもたちの様子・反省】 ・今回の学習内容は、教科書に含まれていないものであり、少し発展した学習であった。しかし、子どもたちはとても興味深く考えることができた。子どもの予想は非常に様々で、考えられる全てのパターンを出してきた。 ・結果から、予想との違いに驚く子がたくさんいて、磁石への興味がより深まった。 ・子どもの中から、磁石の中身はどうなっているんだろうなどの疑問を出させるようにしたかった。 ・なぜ S 極または N 極だということが分かるのかということを果たしてどのくらいの子が理解していたのか・・・。 ・グループで考えさせたが、一人ひとりに折れた磁石をわたしてあげたかった。	